

農業従事者の利益への確かな支援とその守護者

中国農業大学学生代表

見学日時：2018年11月30日（金）9:45-11:30

見学場所：JA全農

見学概要

ここでの見学は講座によって幕を開けた。JA 全農の担当者からは概況、技術開発と実践サポートの二つの面から解説があった。解説を通じて私たちは JA の組織モデルや枠組みそしてカバー対象人数の多さ、さらには農業従事者に限らずサービスを提供していることを知った。またさらに JA の事業は監督事業、市場及び供給事業、信用貸付及び互助保険など多岐にわたっていることについて理解を深めた。その後 JA 全農の提携モデル、組織モデルやビジネスモデルについての紹介を受けた。担当者からの紹介が終わった後は質疑応答となり、私たちは紹介の内容や日頃の学習及び生活を通じて生まれた疑問について質問をし、丁寧な回答を頂いた。ただ、時間の関係で一部の学生が質問できなかったのは残念だった。



次いで、私たちは二班に分かれ内部の見学を行った。農薬の残留や品質検査実験室の見学では、農家が自らの農産品を持参し有料の検査を受けることができることを知った。ここで発行する検査報告は消費者に対し製品の安全性を証明するもので、高い経済効率の実現が可能である。窓ガラスを通して私たちは清潔な実験環境と優れた検査設備を目にし、こうしたものがきっと検査の信頼性を保証するのだと思った。

最後に私たちは屋外の見学を行い、同施設の構成についておおよその理解を得た。印象深かったのは、ここでは亡くなった動物のためにお墓を立て、定期的に追悼していることであった。彼らの生命への崇敬と感謝の心は見学者一人ひとりの心を打つものであった。

なぜですか？

JA 全農は生産者と消費者双方が共に製品の安全性を認証し信頼関係を構築する場を提供することで、生産者と消費者間の好循環を効果的に推進している。また日本の農産品の安全性の高さという点も中国国内とは大きく異なっている。ここでの見学や解説の拝聴を通じて、私たちは彼らの製品の合格率が非常に高く、一方で検査基準も厳しいことを知った。中国国内の農産品に様々な安全性の問題が存在することから、上述の点は今後私たちが解決に力を入れるべきものだと言える。



感想

農業大学の学生として私たちは日本の農業の発展の現状について非常に注目していた。非営利組織である JA にとって重要なのは、生産者と消費者をつなぐプラットフォーム作りであり、サプライチェーンの中核企業として全国の農業の発展を管理することである。関連する地区の多さや対象者数の多さから、さらに大きな発展をするには一定の難しさがあるため、関わる農家や人々のサポートを得る以外にも現地の農協の協力が必要である。

日本であれその他の国であれ、農業においては従事者の高齢化の問題が存在しており、まさにこうしたことから農業の近代化の推進が必要であり、「農村振興」は口だけではなく行動に移すべきものだと言える。